

伝道論Ⅱ シラバス

1. クラスの目標

- A) 伝道の実践的な学びを通して、福音を伝えるためのスキルを身につける。
- B) 聖書が示す救いや福音について考察するとともに、神の愛を示し、福音を伝えるキリストの弟子となっていく。
- C) 学びを通して、父・子・聖霊の三位一体の神様との関係がさらに深められる。

2. 授業日程

隔週で開講する。天候や葬儀等の事情によって変更する場合があります。

3. 授業の進め方

- A) ディスカッションや実践例を通して伝道について考える。
- B) 学期中に伝道の現場で実際に福音を伝え、その実践をもとにさらに考察を重ねていく。
- C) 福音提示の実習を行い、個人伝道のスキルを身につける。
- D) 授業内容や参考図書について、レポートを提出する。

4. 参考文献

- A) 大山明『深みに漕ぎ出そう！』（「よきおとずれ」2012年8月）
- B) 大山明『福音の種まき』（「よきおとずれ」2014年2月）
- C) 大山明『ワークショップ(体験型講座)伝道』（オールMB2013分科会資料）
- D) 高塚苑美『クルマを売りたいならクルマの話はやめなさい！』（すばる舎）
- E) ビル・ブライト『四つの法則』（キャンパス・クルセード）
- F) 高木慶太『聖書とは』『あなたも必ず伝道に成功する』（吹田聖書福音教会）
- G) スコット・マクナイト『福音の再発見』（キリスト新聞社）
- H) その他

5. 評価

- A) レポートはAからFの6段階に+と-を付加して評価する。
- B) 最終的な評価は100点満点で行う。

6. ディスカッションのテーマ

講師や受講生の伝道の実践例を分かち合いながら、以下のテーマについて、ディスカッションを通して考えます。他にも考えたいテーマがあれば、ぜひ提案し、分かち合ってください。

- A) 伝道はほんとうに難しいのか。
- B) 「伝道」とは何か。伝道のゴールはどこか。
- C) 現在の教会の伝道方策はどのようなものか。それはほんとうに機能しているか。
- D) 伝道は教会や集会に人を連れてくることか。
- E) 伝道は組織で行うべきものか。
- F) 伝道と牧会では何が異なるのか。
- G) 「福音」とは何か。聖書が伝えている福音とは何か。
- H) あなたの伝道の「現場」はどこか。どのような人に福音を伝えるべきか。
- I) 今あなたが福音を伝えるべき相手は誰か。優先順位はどうか。
- J) 家族や友人が救われるために必要なことは何か。
- K) 伝道において伝えるべき内容は何か。十字架なのか。
- L) 「四つの法則」の長所と短所は何か。「聖書とは」の長所と短所は何か。
- M) 良い伝道テキストとはどのようなものか。
- N) 人が救われるために「時間」はどれくらい必要か。
- O) 伝道における「問診」と「診断」とは何か。伝道における「薬」の処方とは何か。
- P) 「聞く」と「話す」。どちらが大切か。割合はどれくらいが良いか。
- Q) 伝道している人を教会(礼拝)に誘うのはいつが良いか。
- R) 福音を聞いて信仰を告白した人が教会に来ようとしないのはなぜか。
- S) 救われた人が受洗するタイミングはいつが良いか。
- T) 救われた人はいつから伝道を始めべきか。
- U) 救われた人にはどのような訓練が必要か。